

事も教育の中に郷中教育を取り入れていきたいと考えられているようです。

この長島も離島というハンデを抱えながら、段々畑の石積、42年の大干ばつ、49年の黒之瀬戸架橋に向けての結集した町民の力、御八日踊りで楽しむ様子、一本釣り漁民の魂等を総合しまして、私どもが継承してきているわけですが、皆さま方のご協力のおかげで、鹿児島県でも農業、漁業ともどもこの長島はめざましい地位を築いているところ。これまで培ってきた精神的なもの、教えがどういうものであったのかということ。で今回、教育委員会ですと教育としてまとめ、子どもたちに伝承していきたいと考えているところです。

本日は、皆さま方の体験を放談的に話していただき、今後に残していきたい教えをお話しいただければと思います。忌たんのないご意見を賜りますようお願いいたします。てあいさつといたします。

◆林企画財政課長

放談会の司会を中橋教育長にお願ひします。

◆中橋教育長

本日は放談会にご参加いただきありがとうございます。

本日の放談会は、長島町の発展の歴史、文化、伝統、言い伝え等のなかで、次代を担う子どもたちに継ぐべきものは何か、それをどのように伝えていくかということについてご意見を伺ひまして、これからの町政および町教育行政の参考にさせていただくことを目的としています。そこで、これまで本町の発展に深く関わってこられた大先輩の方々にお集まりいただきまし

た。お聞きしたいことは次の4項目です。1番目は、長島町はこれまでどのように発展してきたか。発展の歴史の中で子どもたちに語り継ぐべきものは何か。2番目は、長島の先人たちは、ふるさと発展のために、どのような苦労をしてきたのか。それを子どもた

ちにどう伝えていくか。3番目は、長島の文化、伝統、言い伝え等の中で、子どもたちに継ぐべきものは何か。それをどのように伝えていくか。最後に長島の未来はどうあるべきか。それを子どもたちにどう伝えていくか。以上の4点です。

それでは、1番目の項目からお話をいただければと思います。

◆林氏

長島が一緒に行った大きな伝統行事として2つありました。一つは明治5年まで続いた「こまどり」という行事で、毎年8月2日に長島郷時代に毎床牧場で行ったイベントです。薩摩の殿様も来られて、島中が大がかりだったようです。島外からの見物客が多く、黒之瀬戸の海峡を船で渡るときに転覆したこともあるようです。2つ目は明治以降ですが、杉ノ段の招魂祭です。これは現在も続いているようです。

◆平下氏

林先生の関連ですが、私たちが青年時代、山に草刈りに行っていたころ、「まがき」というものがあり、馬が外に出ないようにするための石垣が、今でも残っているようです。長島は牧場に適しているということ、450年ほど前に島津が天草から自分の領土にしたのではないかと思

います。畑の石垣は先人たちがとても苦労して造ったものだと思います。あれは今では文化遺産です。長島は土地が狭いですから、汗や血を流しながら、あの石垣をついで面積を確保したわけです。

◆森枝氏

昭和20年8月15日の敗戦を契機に、思想も経済も教育文化も変わった訳ですが、当時は養蚕が盛んであったようです。

電気が通ったのは、長島本島は昭和3・4年のころであったと思いますが、私は諸浦出身で、諸浦に電気が通っ

たのは昭和23年ごろだったと思います。

◆田淵氏

私が感動したことについてお話ししたいと思います。昭和42年の干ばつまでは、長島は地表水ではそぼそと生活していた訳ですが、県職員が大干ばつに思いをはせて、長島に地下ボーリングをしたいというところで、まず、平尾に試掘をしました。その時、2カ月ほどで102メートル掘ったのですが、私たちもこのくらいの穴で、平尾の住民600人の水が確保できるのか、半信半疑でいました。しかし、見事に毎時880リットルの水が出てきました。

ボーリングをした場所の近所に、男勝りのばあちゃんがいまして、初めて水を揚げるとき、このばあちゃん、米、塩、焼酎をお膳に盛り、頭に鉢巻きをして踊りながら来られました。水が揚がるのを見ると、地べたに座って涙を流しながら感動されていました。私は、その姿を見て感